

佐久間東幹線(山線)他工事における工程遅延影響について (事務局確認)

2025年 9月 26日
広域系統整備委員会
計画評価及び検証小委員会事務局

1. はじめに
2. 佐久間FCと東清水FCの運用容量比較について
3. 工事費比較について
4. まとめ

-  **電力広域の運営推進機関**
Department for Cross-regional Coordination of
Transmission Operators (JFPO)

2. 佐久間FCと東清水FCの運用容量比較について

佐久間FCと東清水FCの運用容量について、電発NWの想定として下記の通りとのことである。パターン2は、パターン1と比較し、夏季・冬季電力高需要期のFC容量をより多く確保できることを確認した。

- 2028年度の7月～9月（夏季の電力高需要期）におけるFCの運用容量合計
 - ・ パターン1：0MW
 - ・ パターン2：300MW
- 2028年度の12月～3月（冬季の電力高需要期）におけるFCの運用容量合計
 - ・ パターン1：300MW（12月～1月）、0MW（2月～3月）
 - ・ パターン2：300MW（12月上旬～12月中旬）、1500MW（12月中旬～3月）

凡例：①新佐久間FC、②佐久間FC、③東清水1FC、④東清水2FC、⑤東清水3FC

		2028年度												2029年度
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4～
パターン1	佐久間FCと東清水FCの運用容量合計 (MW)				0					300:④		0		1500 :①～⑤
					(600:②,④)									
パターン2	佐久間FCと東清水FCの運用容量合計 (MW)	0 (600 :②,④)			300:④		0	300 :④					1500:①～⑤	
					(1200:②～⑤)									

※ 試験中は試験に関連するFCの運用容量を0MWとして記載。括弧内は試験中断中（土、日および夜間を想定）の運用容量。

3. 工事費比較について

- 工程遅延に係る工事費増分は、現時点で考え得る請負業者やメーカーに係る費用を織り込んだ工事費として下表のとおりとのことであった（管理費の増分（ α 、 β ）は確認中）。
- なお、表中の γ と δ については電発NWによると下記の通りとのこと。
⇒ γ 、 δ は東京PG、中部PGにおける工事費増分である。工程遅延影響に伴い東京PG、中部PGにて対応が必要であり、その対応内容（メカ技術員確保等のプロジェクト体制維持費、建設済設備メンテナンス費、管理費 他）および増分工事費について東京PG、中部PGへ確認中。
- 電発NWによると、 $\alpha + \gamma$ は、 $\beta + \delta$ よりも大きくなることが想定されパターン1はパターン2よりも工事費の増分が大きくなる傾向にあるとのことだった。

項目	運用容量影響	工事費増分影響
パターン1 (全送電線工事完了後にFC試験実施)	新佐久間FC他運開時期：2029年4月 (現行の整備計画から約12か月遅れ)	+31億円+ $\alpha + \gamma$
パターン2 (東清水FCから順次運開)	新佐久間FC他運開時期：2028年12月 (現行の整備計画から約8か月遅れ)	+31.02億円+ $\beta + \delta$

α と β は管理費であり、工事工程が長くなるほど増分費用が大きくなるものと想定され、 $\alpha > \beta$ の傾向
 γ と δ は東京PG、中部PGにおける工事費であり、工事工程が長くなるとその分増える傾向にあり、 $\gamma > \delta$ の傾向

- 佐久間東幹線（山線）他増強工事における工程遅延事象（大雨・保安林影響および地権者影響における工程遅延）については、工期遅延を最小限にする対策として、電発NWより、東清水FCから順次運開させる案（パターン2）が報告された。
- FC容量確保について、東清水FCを2028年度夏季電力高需要期前に運開させること、また新佐久間FCを2028年度冬季電力高需要期前に運開させることで、全送電線工事完了後にFC試験を実施する案（パターン1）と比較し2028年度夏季・冬季電力高需要期におけるFC容量をより多く確保できることを確認した。したがって、パターン2は、工期遅延の影響を最小限にとどめる案として最善と判断できる。
- 工事費の増分について、電発NW・東電PG・中部PGに確認する項目（ α 、 β 、 γ 、 δ ）があり、現時点で確定できないが、電発NWによると（ α 、 γ ）のほうが（ β 、 δ ）より大きくなることが想定されるとのことだった。したがって、現時点で把握できる情報に基づき判断した場合、パターン1はパターン2よりも工事費の増分が大きくなる傾向にあるとのことだった。
- 以上のことから、電発NWの報告通りパターン2で進めることでどうか。